

ひょうたれいけ

桜台小 5,6年生だより
令和5年 2月20日
人権特別号



2月初めに5,6年生で人権学習の授業を行いました。NHK教育テレビで、2010年1月17日(日)に放映された「なまえをかいた～吉田一子・84歳～」を視聴し、識字(しきじ)について考えました。子どもたちには、映像の中で吉田一子さんが一生懸命ひらがなや漢字を練習している姿を通して「文字や言葉の大切さ」や「学ぶ意義」について考えさせたいと思いました。子どもたちは映像を見て、吉田さんの日常生活での苦勞したことや、くやしかったこと、文字を獲得していく中でうれしかったことをプリントに書き留めていました。特に『母』という字をホワイトボードに書いているシーンでは、食い入るように映像を見ていました。

現在社会では、SNS等で、個人が誹謗中傷されるような出来事が起こっています。映像を見て、少しでも文字や言葉の持つ意味について、子どもたちが何かを感じてくれればと思います。

多くの5,6年生が授業の感想を寄せてくれたので、少し紙面を借りて皆さんに紹介したいと思います。

- 字が書けないと、苦しい思いやくやしい思いをするんだと思いました。いかに学校が大切なのかがわかりました。
- 字の大切さに気がつくことができました。これからも字で相手を傷つけず、人とのかかわりを持っていくために字を使おうと思いました。
- 今回の授業で、吉田一子さんが駅前で落書きを見たり、銀行に行って「もう一度書いてください」と言われた時のくやしさがとても伝わってきました。好きな漢字が『母』というのに、本当に強い思いがあるのだと感じました。
- どれだけ文字が大切なものなのかがわかりました。今まで、文字について深くは考えていなかったけれど、今回の授業でよくわかりました。これからも文字の大切さを忘れずにやっていきたいです。
- 言葉や文字は大切なものですが、間違っただけの使い方をしてしまうと傷つく人も出てくるので、そうならないようにしたいです。
- 今回の授業を受けて、言葉や文字の使い方に関心を持ちたいと思いました。
- 字を人の悪口に使ったり、人を傷つけたりすることに使わないようにしようと思いました。
- 私たちは文字をかけるから、文字を大切にするという気持ちがあまりないけれど、文字を書けない人からすると、すごく大切なことなのだと思います。駅で落書きを見た時、自分がとても大切に思っている字を悪いことに使われて、吉田さんはとてもショックだったのだろうと思いました。
- ひらがなを間違えても、あきらめずに練習したのがすごいなあと思いました。吉田さんの言葉に対する考えが素敵だと思ったので、尊敬したいと思いました。「ひらがなにっき」(絵本)も読んでみたいです。
- 文字を奪われた吉田さんが、それを奪い返して文字を覚えていったという出来事にとっても心をうたれました。吉田さんは、不可能なことはないと私たちに伝えてくれているので、そのことを大切にしたいです。
- 吉田さんは努力をすごくして、字を覚えていてすごいと思いました。字はそまつにするものではなく『人との関係をつないでいくもの』なので、字を大切にしたいと思いました。努力は絶対に裏切らないと思いました。
- 言葉は気持ちを伝えるものなので、これからは、伝える意味のない言葉には、注意をしたいと思いました。
- 吉田さんは、自分で自分の名前を書けなかったことがくやしくて一生懸命に字を練習していました。書けないからといってそこであきらめるのではなく、練習して書けるようになったからすごいなと思いました。私はいつもあたり前のように字を書いています。吉田さんのように文字を書くことを楽しく思って書きたいです。
- 吉田さんは、努力をし、字を練習して書けるようになりました。人は一から少しずつ努力していけばできないなんてことはないと思いました。これからは字をもっと大切に、書きたいです。



この学習を通して、子どもたちが感じたのは、「字の大切さ」「学ぶことの大切さ」でした。吉田一子さんが、一生懸命学んだ字を手の中に握りしめて持って帰るところや、「かわいい」字で人を傷つける言葉を書くことによって腹立たしく思ったところから、「普段何気なく書いている字が、実はとても大切なものだということがわかった」と感想に書いている子がたくさんいました。

SNSなどの情報伝達手段の発展により、文字や言葉が、人を傷つけたり、人と人とのつながりを切ったりしていることがメディアの報道から伝わってきます。子どもたちには、学習を通して「文字や言葉は人と人との関係をつなぐものである」といった、文字や言葉の持つ本来の原点に気づいてほしいと思います。(文責 北住 昌文)